

Timor et tremor 逐語解説書

聖路加国際病院礼拝堂聖歌隊 川津泰人 2009.7.10、2014.6.15改定

Francis Jean Marcel Poulenc作曲 歌詞：詩篇54:6、56:2、30:3-4、30:18より
 本解説書は、従来の意識中心の解説からよりわかりやすく言葉を中心とした逐語訳に重点を置いたものです。意識は左の原文に会うように並び替えてあります。この目的は、実際に歌う際その言葉の意味をきちんと把握して歌う為である
 従って、かなりの部分を辞書を参考に活用形の前原語を表した。間違いあればご指摘していただければ幸いです。ラテン語読み方については、主なものとして、古典式、イタリア教会式、純イタリア式、ドイツ式があるがここでは、現在のイタリア語標準語である純イタリア式を採用した。(他に仏式、スペイン式などあり) Tiの発音：①tiプラス母音の場合は、ツイtsの発音、
 pontio", etiam, tertia, consubstantialem, resurrectionem, deprecationem, orationem, auditionem, gratiasなどはツイと発音、②tiプラス子音及びtiで終わる場合：tibi, timebit, beatiなどはティと発音する。
 教会式は1903年教皇ピウス十世がMotu Proprioとしてカトリック全体に推薦したもので純イタリア式と最も異なるのはMihi, Nihilの発音、教会式はミキ、ニキル(古典式と同じ)、純イタリア式はミー、ニイル
 下記の参考資料(辞書類は主に白井図書館蔵書を利用)も大いに役立ちました。また、何かアドバイス頂ければ幸いです(メールアドレス mondromusicale2006-canto@yahoo.co.jpへダウンロードの為のURIは <http://www.geocities.jp/pacificostluke/sub4Cantico.html> 参照)。
 参考資料：ミサ曲、ラテン語・教会音楽ハンドブック(三ヶ尻正シヨパン)、岩波キリスト教辞典、ラルース世界音楽人名事典(福武書店)、音楽大辞典(平凡社)、聖書百科全書(三省堂)、聖書思想事典(三省堂)、聖書人名事典(教文館)、羅和辞典(研究社)、羅和字典(南雲堂)

Timor et tremor	恐れとおののき	et	tremor	venerunt	super	me,
	恐れ	そして	おののきが	来る	上に	わたし
	et	caligo	cecidit	super	me	
	そして	暗黒、心の闇	cado落ちる、侵略される	上に	わたし	
	miserere	mei	Domine	miserere	quoniam,	
	憐れみたまえ misero	私の	主	憐れみたまえ misero	だから、そのためますます	
	in	te	confidit	anima	mea.	
	に	貴方に	ゆだねる	魂	私の	
	Exaudi	Deus	deprecationem	meam,		
	聞き入れたまえ	神	祈りを	我が		
	quia	refugium	meum	es	tu	
	なぜなら、	避難所	私の	あり、	貴方は(神は)	
	et	adjutor	fortis	Domine		
	そして	援護者、援助者	力強い	主		
	invocavi	te	non	confundar.	加護を願ひ奉る。	
	invoco祈る、呼びかける	光	しない	迷う、混乱させる		
標準的意訳	恐れとおののきが わたしの上を覆い そして、私は深い闇につつまれた 主よ憐れみたまえ 私はわたしの魂をあなたにゆだねます。 神よ、我が祈りを聞き入れたまえ なぜなら、あなたは私の避難所であり、 そして、力強い救い主である主の 加護を願ひ奉る。私は迷いません。	別訳	恐れとおののきが わたしの上で1つとなり 私は深い闇につつまれた 主よ憐れみたまえ 私はわたしの魂をあなたにゆだねます。 わが神よ、我が祈りを聞き入れたまえ 我が避難所であり、 力強い救い主である主の 加護を願ひ奉る。我恐れることなし			

(最後のnon confundarはTeDeumの最後に使われますが、神に向かって迷わせないで下さいーとい強いメッセージが筆者の解釈です)

<参考情報>

フランシス・ジャン・マルセル・プーランク (Francis Jean Marcel Poulenc [fʁɑ̃sɛs ʒɑ̃ maʁsɛl puʁɑ̃k], 1899年1月7日-1963年1月30日)	フランシス・ジャン・マルセル・プーランクは、フランスの作曲家、フランス6人組の一人。彼は、声楽、室内音楽、宗教的楽劇、オペラ、バレエ音楽、オーケストラ音楽を含むあらゆる主要な音楽ジャンルの楽曲を作曲している。1950年7月のパリのプレス紙では、評論家のクラウド・ロスタン氏に、その作風から、「ガキ大将と聖職者が同居している」と評された。 彼はパリの裕福な家庭に生まれ、両親は敬虔なカトリック教徒であった。母親からピアノの手ほどきを受け、後にスペインの名ピアニスト、リカルド・ビニェスにピアノを師事し、シャルル・ケクランから作曲を学んだ。ビニェスの紹介によってエリック・サティ、ジョルジュ・オーリックら後のフランス6人組のメンバーと出会い、詩人ジャン・コクトーらのサロンに出入りするようになった。24歳のとき、ロシア・バレエ団を主宰するセルゲイ・ディアギレフの委嘱によってバレエ『牝鹿』を作曲し、翌1924年にロシア・バレエ団によってそれは初演されたが、脚本はコクトー、舞台と衣装はマリ・ローランサン、振付・主演はプロニスラヴァ・ニジンスカによるという極めて豪華なものだった。以来、軽妙洒落で親しみやすいその作風は大衆に喜んで受け入れられたが、作曲活動だけでなく、パリトン歌手ビエール・ベルナックとによる自作歌曲のピアノ伴奏をはじめとして積極的に演奏活動もし、録音も残されている。私生活では、両性愛者とされ、恋人の一人にラディゲがいたことが判っている。出典：フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』
Timor et tremor	Translations and Annotations of Choral Repertoire[よれば原文はそのものが聖書にあるわけではなく、詩篇54:6[55:5]、56:2[57:1]、30:3-4[31:2-3]、30:18[31:17] (※カッコの外はヴァルガーター、[カッコ内]は新しい聖書) から翻訳したものです。
ミサとは	もともとは解散という意味-Ite, missa estここで会は終わるので解散 キリストと弟子たちの最後の晩餐を象徴的に再現するキリスト教会の最も重要な典礼、その基本は、キリストの体と血になぞらえパンとぶどう酒を捧げ、神に感謝し、次いでパンを裂き、信者に分かち与えることからなる。楽曲としては、Offertorium (奉唱歌)、Sanctus、Agnus Dei、Communio (聖体拝領唱)が上記の項にそれぞれ対応する 荘厳ミサMissa Solemnis-盛式ミサのことで歌唱ミサ(歌ミサ)によりろうそく、香炉などのさまざまなシンボルを使って行うミサ
聖体拝領	聖餐式のとき聖体を受けること 聖体-キリストの体のこと、パンとぶどう酒の形をとって現存されているとされる
旧約	古い契約、最初の契約とも呼ばれ、イエス以前の契約を指す。イエスの死と復活に神と人間の関係の刷新を見てそれを新しい契約-新約の成シナイ契約はモーゼを仲介にシナイ山にて締結された物、内容は一神からイスラエルへの十戒を中心とする立法の揭示と授与そして民によるこれらの遵守の誓い、神と民相互の義務
ドイツ式ラテン語読み(主要なもの)	c(e,jの前でツイ、pacem/パツェム)、sc(a,o,uの前でksee,lの前でstsu—suscipe、スツイベ)、gn/gl(そのまま発音agnusアグヌス)、gu+母音=qu+母音(gv—sanguineサングヴィネ、kv—quiクヴィ)、hはよむ、e(ドイツ式に発音meserere—ミゼレイレ、laudamus te—ティー)など他にもあるので詳しくは三ヶ尻著ミサ曲ラテン語教会音楽ハンドブック(シヨパン)ご参照

À Á à á Ä ä Ì Í Û Ü ù ú Û ü Ê Ë é è ò ó Ô Ò ö Œ œ Æ æ ß

音取用Midi <http://www.geocities.jp/pacificostluke/TimorEtTremorTenor.mid>